

エッセイ集

魂は赤い色をしている

Kinosaki Akane

紀の崎 茜

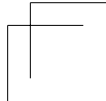
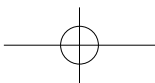
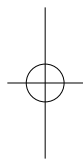
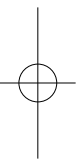
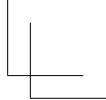
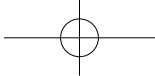
青山ライフ出版

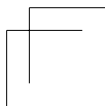
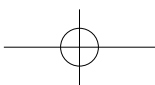
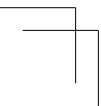
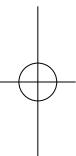
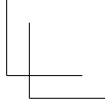
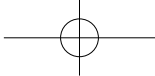
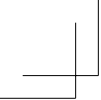
エッセイ集

『魂は赤い色をしている』

紀の
崎
茜

魂は赤い色をしている



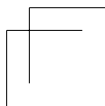
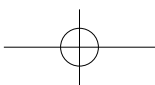
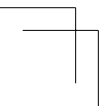
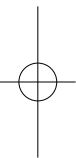
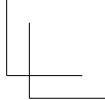
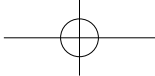
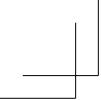


目次

| | |
|-------|----|
| はじめに | 10 |
| 天井に浮く | 12 |
| 予知夢 | 14 |
| 宇宙へ浮く | 26 |

| | |
|------------|----|
| 魂は赤い色をしている | 88 |
| 五円玉の信号 | 84 |
| 窒息 | 80 |
| 鳥の歌 | 72 |
| 魂の手紙 | 66 |
| 真昼の幻 | 62 |
| 私は大地 | 54 |
| 不幸の手紙 | 40 |
| 予告 | 34 |
| 幻像 | 30 |

| | |
|-------------|-----|
| 宇宙を思う | 100 |
| 蟻は空を見るだろうか | 106 |
| 地球の運命 | 110 |
| パラレルワールド | 118 |
| 宇宙は意識で出来ている | 120 |
| 魂は電気である | 122 |
| ふるさと | 128 |
| 美を追う | 132 |
| おわりに | 136 |



魂は赤い色をしている

はじめに

私は人間でありながら、人間でない気がする。

不思議な現象が次から次へと起こるからだ。

私はいったい何者なのだろう。

どこから来て どこへ行くのか。

はじめに

本書はこの問いかけに私という存在を探し
もとめた記録である。

尚この記録は参考資料としてすでに発表し
た『魂は赤紫がお好き』の中から多く引用し
たこともご了承願いたい。

魂は赤い色をしている

天井に浮く

幼いころふと気がつく。浴室の天井に浮いていた。見下ろすと湯舟の中に父に抱かれた私がいる。人形のように動かない。

天井に浮く私は感情というものが全くない。ただ意識だけになっている。

次に体験したのは、座敷の天井に浮いた時

だった。見下ろすとお河童頭かっぱの私がいる。やはり人形のように動かない。

ふと庭を見た。門の脇の大きな木に雄鳥おんどりがいる。よく見ると胴体がない。顔だけだ。人の顔ぐらいあっただろうか。雄鳥は見るともなく私を見ている。

怖くはなかった。まるで仲間のように感じた。

この二つの体験は、私が何者なのかを問いかけるきっかけとなったのである。

魂は赤い色をしている

予知夢

不思議な体験はしばらく起こらなかったが、起こりはじめたのは結婚後のことである。それも娘が嫁いだ後だった。

こんな夢を三晩つづけて見ている。

娘と私が水の張ったトンネルの中にいる。泳げない私が娘といっしょに笑いながら泳い